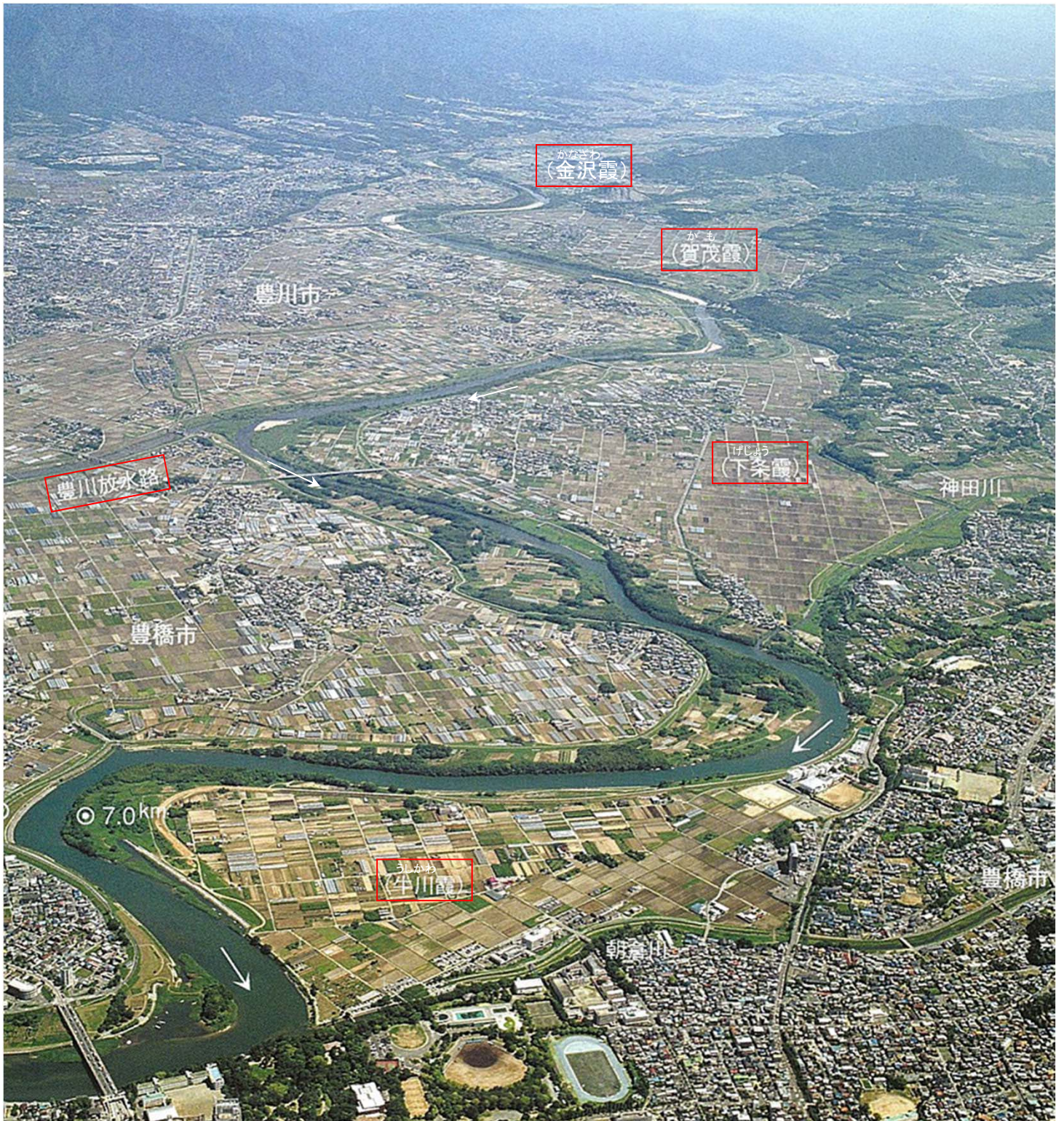


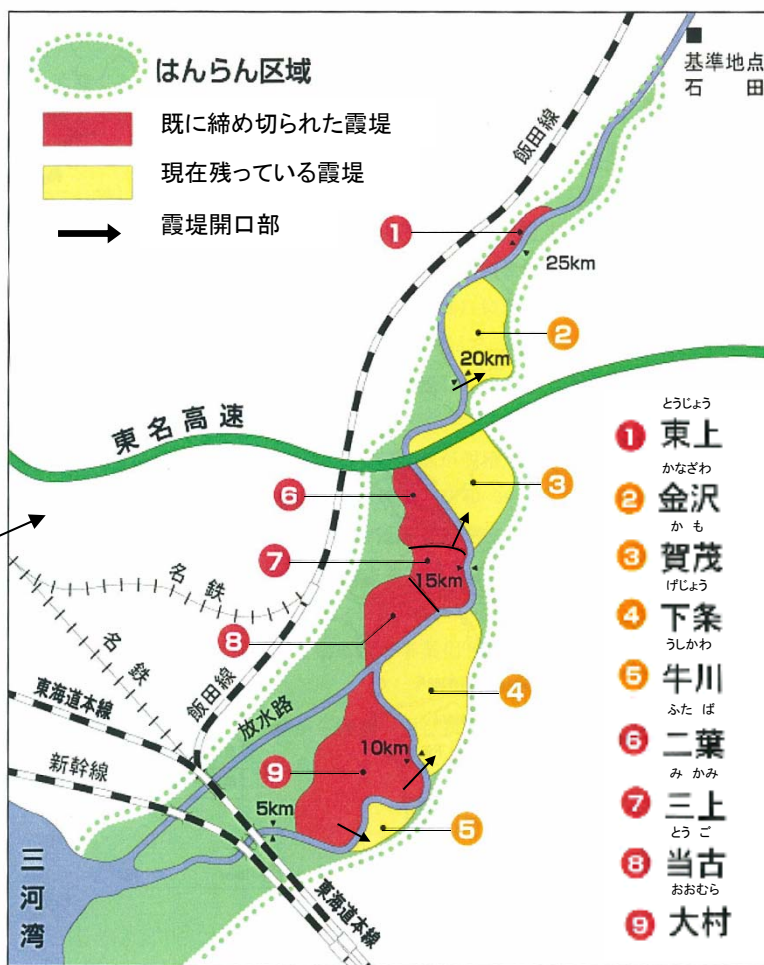
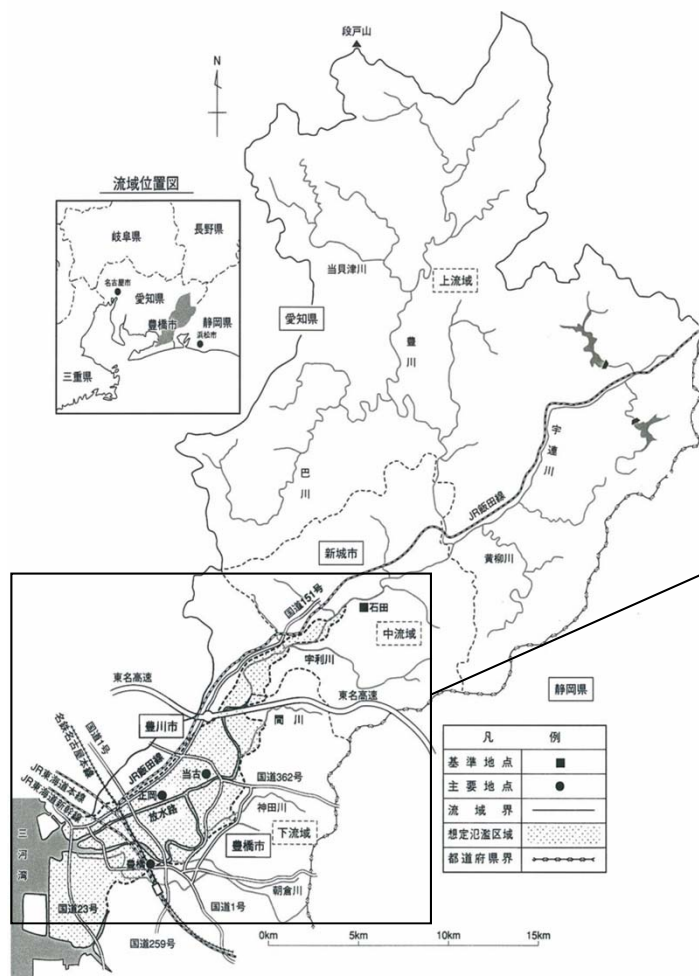
豊川の霞堤



平成13年度 平常時撮影

国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所

■豊川の霞堤の位置



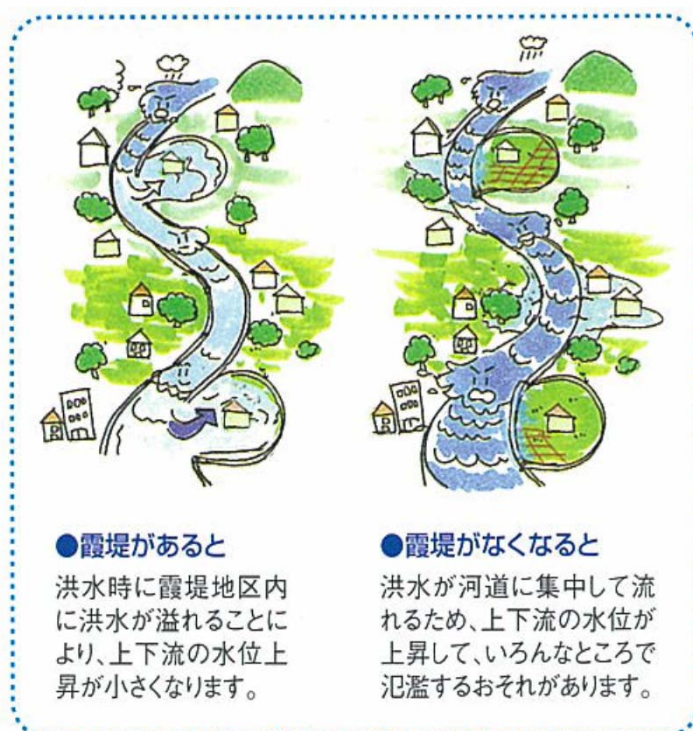
■霞堤に始まる豊川の治水

豊川は流域が小さく、流路延長も短いため頻繁に洪水を繰り返してきました。

豊川における治水事業は、江戸時代に吉田の城下町を洪水から守るため、中下流部に設けられた霞堤に始まるといわれています。

霞堤は堤防が不連続であり、この不連続な箇所から一時的に洪水が溢れることで下流部の浸水被害を軽減してきました。これにより吉田の城下町は洪水から守られた反面、霞堤地区では洪水の度に浸水に悩まれ、その被害は甚大でした。

霞堤は昭和 30 年代には 9 箇所ありましたが、昭和 40 年に完成した豊川放水路により、沿川の洪水被害は格段に緩和されるようになりました。その後、豊川右岸側の 5 つの霞堤は、締め切られました。現在は、左岸側の牛川・下条・賀茂・金沢の 4 霞が残っています。



●霞堤があると

洪水時に霞堤地区内に洪水が溢れることにより、上下流の水位上昇が小さくなります。

●霞堤がなくなると

洪水が河道に集中して流れるため、上下流の水位が上昇して、いろんなところで氾濫するおそれがあります。

■霞の浸水状況



平成15年8月 台風10号 豊橋市牛川町（牛川霞）



平成15年8月 台風10号 豊橋市牛川町（下条霞）



平成19年7月 台風4号 豊橋市賀茂町／豊川市三上町（賀茂霞）



平成19年7月 台風4号 豊川市金沢町（金沢霞）

道路の冠水状況



田畑・道路の冠水状況

■今後の豊川の霞堤対策について

豊川水系河川整備計画(平成13年11月28日策定)での霞堤対策については、

○下条、賀茂及び金沢の各霞堤では、小堤の設置により浸水する頻度を低減させるとともに、関係自治体を実施する建築物の建築制限等の土地利用規制及びきめの細かいハザードマップ等のソフト対策などにより浸水被害の軽減を図る。

○牛川霞堤については、下流からの河川改修の進展により、他の地区への水位上昇などの影響がなくなったことから、土地利用計画等と調整の上、継続して築堤により無堤部を解消する。

と、位置づけています。

従って、最下流の牛川霞については、今後も地元豊橋市と土地利用計画等の調整を図りながら築堤により開口部を無くしていきます。

下条、賀茂、金沢の霞堤については、小堤の計画や土地利用規制等のソフト対策について、引き続き豊橋市・豊川市、地元関係者と調整を図り、事業を進捗してまいります。

■小堤の計画について

○霞堤地区小堤の概要

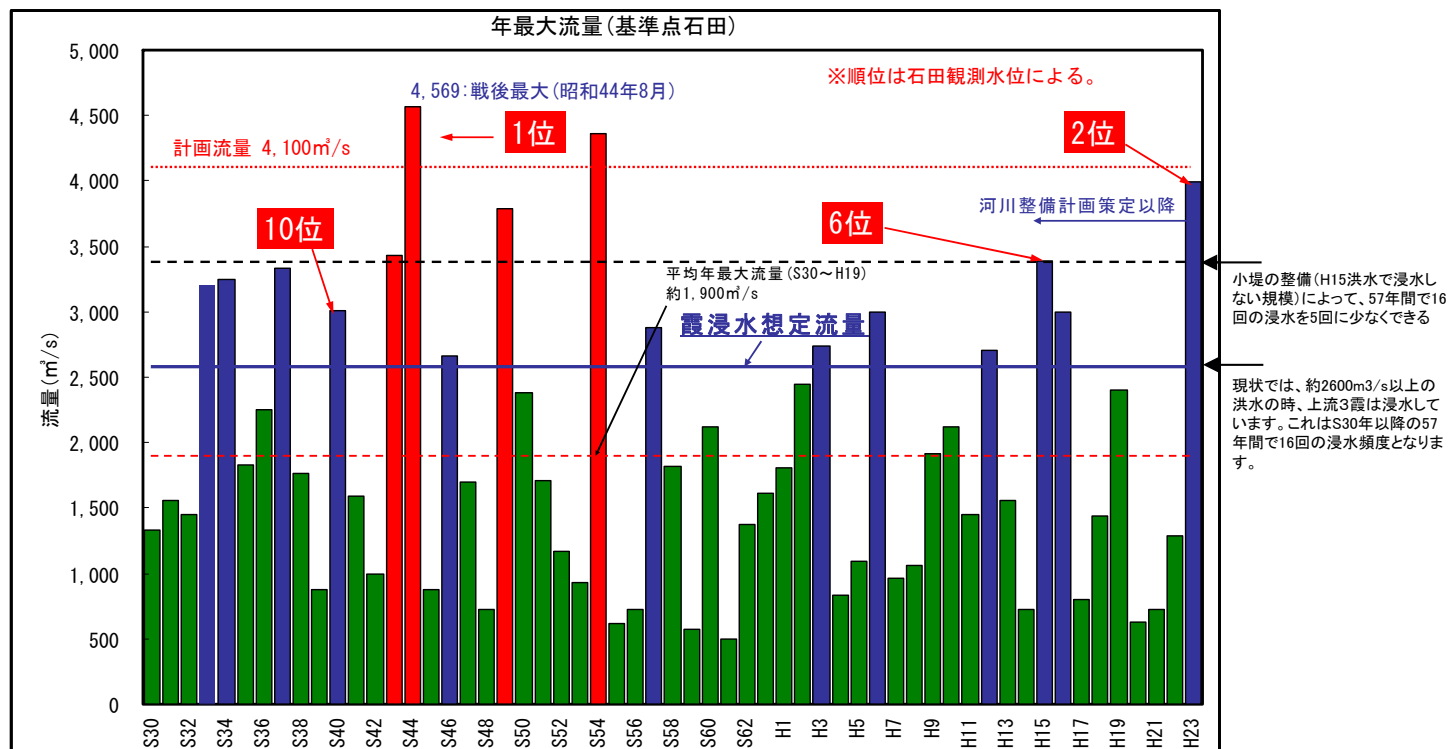
- ・ 下条、賀茂及び金沢の上流3つの霞堤を締切った場合には、洪水時の水位が上昇し、破堤等の危険性が増大します。このため、整備計画が完了しても霞堤を締め切ることができません。
- ・ このため、霞堤地区の浸水被害の軽減を図ることを目的に、小堤を設置します。
- ・ 霞堤地区小堤とは、霞開口部に設置する小規模堤防のことであり、河道で処理できる程度の中小規模洪水から霞地区内の浸水を防除するものです。

○霞堤地区小堤の設定について

- ・ 霞堤地区小堤は次のように予定しています。
 - ① 築堤高は平成15年8月洪水(戦後6位、平成2位)で外水氾濫しない高さ
 - ② 3霞堤地区で浸水頻度が不公平とならない高さ
(昭和44年8月洪水の降雨パターンを参考に、高さの計算を行っています。)
 - ③ 浸水時間を現況よりも長期化とならないように排水施設の整備

■現状の霞の浸水頻度の軽減

- ・ 現状(設案ダムのない状況)において、上流の3つの霞堤では、基準地点石田において約2,600m³/s以上の洪水で浸水しており、その頻度はおよそ3～4年に一度くらいとなっています。
- ・ 小堤の整備により、上流3霞の浸水頻度を3年～4年に1回から、約10年に1回程度に低減する効果があります。



問い合わせ先

「豊川の霞堤」についてのお問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課

〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6
TEL 0532-48-8107 FAX 0532-48-8100
<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/>

H21.3.31
H22.11.9修正
H25.10.31修正